

簡易な収入(所得)見込額の申立書 【家計急変者】

【記載例】

○「物価高騰対応重点支援給付金申請書」と一緒にご提出ください。

① 下記にチェック (☑) してください。

私の世帯は、予期せず家計が急変し、住民税非課税世帯となる水準相当に収入が減少しました。

(記入上の注意)

「予期せず家計が急変」したことは、定年退職による収入の減少等、収入がないことがあらかじめ明らかであるものは該当しません。

② 申請書の「2. 申請者が属する世帯の状況」に記入した者全てについて記入してください。

	(フリガナ) 氏名	左欄の者が扶養する者の数	令和5年度 住民税 課税状況	障害者控除等の適用	令和5年1月から11月までの収入④			年間収入 見込額 D/11×12 ⑤	非課税相当 収入限度額 ⑥
					給与収入 【A】	事業収入 又は 不動産収入 【B】	年金収入 【C】		
記載例①(収入で申請)					収入合計額 A+B+C=【D】				
1	トクベツ タロウ 特別 太郎	1 人	<input checked="" type="checkbox"/> 課税 <input type="checkbox"/> 非課税 <input type="checkbox"/> 未申告	<input type="checkbox"/> 障害者控除 <input type="checkbox"/> 寡婦(夫)控除 <input type="checkbox"/> ひとり親控除	1,210,000 円	0 円	0 円	1,320,000 円	1,480,000 円
2	トクベツ ハナコ 特別 花子	0 人	<input type="checkbox"/> 課税 <input checked="" type="checkbox"/> 非課税 <input type="checkbox"/> 未申告	<input type="checkbox"/> 障害者控除 <input type="checkbox"/> 寡婦(夫)控除 <input type="checkbox"/> ひとり親控除	0 円	0 円	0 円	円	円
3	記載例②(所得で申請)				収入合計額 A+B+C=【D】			円	円
4	トクベツ タロウ 特別 太郎	1 人	<input checked="" type="checkbox"/> 課税 <input type="checkbox"/> 非課税 <input type="checkbox"/> 未申告	<input type="checkbox"/> 障害者控除 <input type="checkbox"/> 寡婦(夫)控除 <input type="checkbox"/> ひとり親控除	1,210,000 円	0 円	550,000 円	1,920,000 円	1,480,000 円
5	トクベツ ハナコ 特別 花子	0 人	<input type="checkbox"/> 課税 <input checked="" type="checkbox"/> 非課税 <input type="checkbox"/> 未申告	<input type="checkbox"/> 障害者控除 <input type="checkbox"/> 寡婦(夫)控除 <input type="checkbox"/> ひとり親控除	0 円	0 円	0 円	円	円

(記入上の注意)

- ① 「左欄の者が扶養する者の数」欄には、同居・別居にかかわらず、左欄の者が扶養している親族の数を記入して下さい。(扶養控除等申告書で届け出ている人数)
- ② 「住民税課税状況」欄は、該当する項目にチェック☑してください。
- ③ 「障害者控除等の適用」欄は、該当する控除を受けている場合には、チェック☑してください。
- ④ 「令和5年1月から11月までの収入」欄には、住民税非課税相当の収入であった令和5年1月から令和5年11月までの収入を記入してください。

給与収入	※給与収入がある場合にご記入ください。 ※給与明細書などの収入額が分かる書類をご提出ください。
事業収入又は 不動産収入	※事業収入又は不動産収入がある場合にご記入ください。 ※帳簿などの収入額が分かる書類をご提出ください。
年金収入	※年金収入がある場合にご記入ください。 ※年金決定通知書、年金額改定通知書、年金振込通知書などの支給額がわかる書類をご提出ください。

※給与収入、事業収入又は不動産収入、年金収入いずれの場合も、所得税が課されないものは、これらの収入として計上する必要はありません。

- ⑤ 「年間収入見込額」欄には、D欄(収入合計額)を11で割り、12倍した金額を記入してください。
- ⑥ 「非課税相当収入限度額」には、①欄の人数に応じて、下表から該当する非課税相当収入限度額を記入してください。
(早見表)

扶養している親族の状況	非課税相当収入限度額
単身又は扶養親族がいない場合	97.0万円
配偶者・扶養親族(1名)を扶養している場合	148.0万円
配偶者・扶養親族(計2名)を扶養している場合	190.0万円
配偶者・扶養親族(計3名)を扶養している場合	235.9万円
配偶者・扶養親族(計4名)を扶養している場合	281.5万円
障害者、未成年者、寡婦、ひとり親の場合	204.3万円

※これを超える場合は、上記の被扶養者の人数に応じた区分を適用

～ 所得により申請する場合は、引き続き、裏面を記入してください ～

③ 年間所得により申し立てる場合、申請書の「2. 申請者が属する世帯の状況」に記入した全ての者について記入してください。

	(フリガナ) 氏名	【収入】 年間収入 見込額	【控除】			【所得見込】 年間所得 見込額	【非課税相当額】 非課税所得 限度額
			給与所得 控除額	事業収入等の 経費	公的年金等控 除		
記載例①(収入で申請する場合、本欄の記入は不要)							
1	トクベツ タロウ 特別 太郎						
2	トクベツ ハナコ 特別 花子						
3	記載例②(所得で申請)						
4	トクベツ タロウ 特別 太郎	1,920,000円	550,000円	0円	600,000円	770,000円	930,000円
5	トクベツ ハナコ 特別 花子	0円	0円	0円	0円		

(記入上の注意)

⑤「年間収入見込額」欄には、表面の年間収入見込額(⑤欄)の額を転記して下さい。

⑦「給与所得控除額」欄には、以下の算定式により控除額を計算の上、ご記入ください。

- ① A/11×12の額(給与収入分)が162.5万円以下 → 55万円
- ② A/11×12の額(給与収入分)が162.5万円超180万円以下 → 給与収入分×40%－10万円
- ③ A/11×12の額(給与収入分)が180万円超360万円以下 → 給与収入分×30%＋8万円
- ④ A/11×12の額(給与収入分)が360万円超660万円以下 → 給与収入分×20%＋44万円

⑧「事業収入等の経費」

- ①事業収入又は不動産収入を記入した方は、当該収入のために要した経費の12か月相当額をご記入ください
- ②帳簿等の上記の経費がわかる書類をご提出ください。

⑨「公的年金等控除」の欄には、以下の算定式により控除額を計算の上、ご記入ください。

- (65歳未満の方) 公的年金等収入分 → 控除額
 - : 60万円以下 → 公的年金等収入分の全額
 - : 60万円超130万円未満 → 60万円
 - : 130万円以上410万円未満 → 公的年金等収入分×0.25＋27万5千円
 - : 410万円以上770万円未満 → 公的年金等収入分×0.15＋68万5千円
- (65歳以上の方) 公的年金等収入分 → 控除額
 - : 110万円以下 → 公的年金等収入分の全額
 - : 110万円超330万円未満 → 110万円
 - : 330万円以上410万円未満 → 公的年金等収入分×0.25＋27万5千円
 - : 410万円以上770万円未満 → 公的年金等収入分×0.15＋68万5千円

⑩「年間所得見込額」の欄には、以下の算定式により計算の上、ご記入ください。

⑩年間所得見込額 = ⑤年間収入見込額 - (⑦給与所得控除額 + ⑧事業収入等の経費 + ⑨公的年金等控除)

⑪「非課税所得限度額」には、①欄の人数に応じて、下表から該当する非課税相当所得限度額を記入してください。

※限度額は下の早見表から、①欄の「左欄の者が扶養する者の数」に応じた状況に対応する欄の金額を記入してください。

※下表の「扶養している親族の状況」は、「申請者本人」「同一生計配偶者(所得金額48万円以下の者)」「扶養親族(16歳未満の者も含む)」の合計人数です。

〈早見表〉

扶養している親族の状況	非課税相当所得限度額
単身又は扶養親族がいない場合	42.0万円
配偶者・扶養親族(1名)を扶養している場合	93.0万円
配偶者・扶養親族(計2名)を扶養している場合	125.0万円
配偶者・扶養親族(計3名)を扶養している場合	157.0万円
配偶者・扶養親族(計4名)を扶養している場合	189.0万円
障害者、未成年者、寡婦、ひとり親の場合	135.0万円

※これを超える場合は、上記の被扶養者の人数に応じた区分を適用